

# 令和2年度 いわみ西保育所拠点事業報告

## 《いわみ西保育所事業報告》

### 1. 事業総括

#### (1) サービス事業

保育所保育指針をもとに、子どもたちが将来、社会の中で自分らしく生きることが出来るよう、子どもたちの成長を支えてまいりました。乳児期には人とのふれあいを大切にし、愛着形成を育み、自己肯定感が持てるような愛情を持った関わりを心がけ、幼児期には、心の安定を基礎として、いろいろな経験を通して心身ともに健全に成長できるように保育計画を立て、実践してまいりました。また、地域とのつながりを大切に考え、令和2年度はSNSを利用した地域への発信も行いました。新型コロナウイルスの感染拡大予防対策もあり、実際の交流などは実施できませんでしたが、地域とのつながりが無くなることのないよう、新しい試みにも挑戦しました。

新型コロナの影響で、行事の中止、規模の縮小などはありませんでしたが、子どもたちの成長の喜びを保護者と共有できるように、対策をとりながら子どもたちの成長の姿を見て頂き、保護者への子育て支援なども行ってまいりました。

#### (2) 人財育成事業

今年度は、新型コロナウイルスの影響で外部研修を受けることがほとんどできませんでしたが、前半で法人内研修のマネジメント研修を全職員で受講し、福祉職員としての意識が変わってきていることを感じています。後半は施設長等だけの研修ではありませんでしたが、学んだことを職員に伝えていくことで、事業所内の意識統一が少しずつ進められてきています。また、外部研修が受けられない事で園内研修の重要性を感じ、職員間で話し合う機会が増えたように感じています。お互いの保育について語り合う中で、保育の見直しや、これまでの慣習にとらわれない新しい保育の実践に繋がってきています。そして、オンライン研修が広がってきている中で、職員全員で情報を共有できることは、職員全体のレベルアップへとつながってきています。

現在、絶対ルール順守達成に取り組んでおりますが、職員一丸で取り組むことは職員が同じ目標を持ち、同じ方向を見つめて進めるのではないかと思います。

#### (3) 施設整備事業

事業計画にあげたものはすべて購入し、施設整備は問題なく進められました。今年度は新型コロナウイルスの感染拡大予防という急な環境変化がありましたが、予防対策金として各保育所、各事業に対して国や町から補助金が出ました。感染予防に必要な対策を検討し、補助金を利用して感染予防対策設備、感染予防物品の購入なども行い、感染対策をとりながら保育を行うことが出来ました。

令和2年度に実施した個別の事業の詳細及び成果等は以下の通りです。

**【サービス事業】**

| 計画上の事業   | 実施した内容・成果等  |
|--|---|
| <p>(豊かな心を育てる)<br/>絵本に親しむ</p> <p>地域交流を行う</p> <p>異年齢児交流を大切にす</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの年齢や興味を考えながら、絵本を積極的に保育の中にとり入れました。<br/>乳児期は、発語の意欲を高め、読み聞かせを通して人との触れ合いを積極的に行い、人間関係を深めながら、言葉の理解へとつなげていきました。<br/>幼児期は、絵本を通してイメージを広げ、人間関係、友だち関係の広がりへとつなげていきました。また、絵本を通して知識を広げ、いろいろなことに興味関心が持てるように促してきました。</li> <li>・これまで続けて行っていた家庭への絵本の貸し出しについてアンケートを取ってみました。90%以上の保護者が家庭での読み聞かせに、貸し出しに絵本を使用していることが分かりました。喜びの声も多くいただいたので、今後も続けて行い、読み聞かせの重要性なども伝えていきたいと思います。</li> <li>・新型コロナウイルスの影響で、リスクの高い老人クラブ、高校生との交流は、今年度は見合わせました。</li> <li>・地域ボランティアによる、お茶会指導、絵本の読み聞かせは、コロナの状況が落ち着き始めた7月頃より感染対策をとりながら実施しました。</li> <li>・矢上小学校との交流は、お互いの状況について連絡を取りながら、時期や時間・対策をとりながら行いました。</li> <li>・コロナ渦ではありましたが、地域とのつながりをなくさないよう心掛けました。</li> <li>・保育所内であっても、感染予防対策は取っていたので、今年度は他クラスとの交流は控えることが多くありました。コロナの状況が小康状態になった時には、散歩など密にならないような活動は取り入れました。</li> </ul> |

|  |  |
|--|--|
| <p>わらべうたに親しむ</p>                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、町内講師ではありましたが回数を減らして実施しています。しかしながら、心の安定には効果的なので、子どもたちが親しめるように保育士が日常に取り入れて実施しました</li> </ul>   |
| <p>アートデーを行う</p>                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師による3歳児3回、4歳児4回、5歳児5回のアートデー(絵画・造形活動教室)を行う予定でしたが、3歳児・5歳児がコロナの影響で1回ずつ減らして実施しています。内容は、絵画、粘土造形、自然物を使つての製作活動、版画などそれぞれの年齢で経験させたい活動を取り入れました。</li> <li>・専門的な指導を受けながら、子どもたちの表現力を上げることや表現する喜びを感じることは大切なことなので、実施するにあたって、担任は講師との話し合いをしっかりと行い、より成果を上げるように努めてまいりました。</li> </ul>                                       |
| <p>外国の文化に触れる</p>                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師(ラドゥさん)による「えいごであそぼう」教室を4、5歳児で各3回実施する予定でしたが、コロナの影響で各2回の実施となっています。</li> <li>・昨年度までは3園合同で行っていましたが、人数が多くなりすぎる為、今年度は人数調整をして、東保育所は単独で行っています。(日貫保育所はいわみ西保育所と合同)</li> <li>・英語での講師によるゲーム指導や言葉遊びなどを行い、外国語に自然と触れ合える場を提供しました。続けて行っていることで、子どもたちの異文化に対する感覚への変化を感じています。受け入れる気持ちが柔軟になり、楽しみながら視野を広げていると思います。</li> </ul> |
| <p>(健康な体を作る)<br/>年齢や発達に応じた運動あそびを行う</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの年齢にあった活動や発達を考慮した運動あそびや体力作りを取り入れるようにしました。また体幹作りへの様々な取り組みも取り入れました。</li> <li>・乳児期は、基本的な全身活動を大切に考え、発達に応じた動きや運動を経験できるような活動を取り入れてきました。また手先や指先のような末端の動きもしっかりと行うことによって、幼児期での箸の使用や、絵を描くこと文字を書くことなどの機能性につなげていくことなども心がけました。</li> <li>・幼児期では、基本的な運動能力(歩く・走る・登る・跳ぶなど)を高める活動を取り入れ、取り組む姿勢、挑戦する気持ちも</li> </ul>      |

|                                     |   |
|-------------------------------------|---|
| <p>自然の中での遊び<br/>を体験する</p>           | <p>育むようにしました。また、達成感が味わえるような取り組みも大切にしました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5歳児は、二か月ごとに専門の講師による運動教室が行われ、マット運動などを通して基礎的な動きを学びました。また参観日を設け、保護者の方に子どもたちの頑張りや成長を見ていただきました。</li> <li>・新型コロナウイルス渦ではありましたが、恵まれた地域の自然を生かし、積極的に戸外に出て自然の中でのあそびを体験しました。昨年実施した日貫の金比羅山への山登り体験は、山道を歩いたことがない子も多く、貴重な体験だったので、今年度も継続しました。</li> <li>・川遊びは、深篠川と日貫川へ行きました。川の形状が違うので、それぞれちがった川遊びを体験することができました。</li> <li>・1、2歳児は幼児クラスに手を引いてもらいながら、保育所周辺へ出かけました。小さい子どもたちも出かけることは、嬉しいようで、自分で歩きながら、探索活動を楽しんでいました。</li> <li>・自然の中で過ごせたことは、コロナ渦中で家庭での外出が難しい子どもたちにとっては、良い気分転換となったのではないかと思います。</li> </ul> |
| <p>(食育に取り組む)<br/>毎日の給食をしっかりと食べる</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しく食事ができるような雰囲気づくりを大切にしました。乳児クラスでは、食べる意欲が持てるような言葉かけを行い、自分で食べる事を十分に経験させました。</li> <li>・幼児クラスでは、しっかりと身体を動かすことで空腹感を持たせ、意欲的に食べられるようにしました。</li> <li>・食事の前に食材の話しや作り方の話を聞き、これから食べる食事に興味関心を持たせるようにしました。</li> <li>・季節を感じられるような食材の提供、食べるのが楽しくなるような食事の提供に努めました。</li> <li>・好き嫌いをせず何でも食べられることを目指していますが、食事の楽しさは大切なので、無理強いすることなく個人に合わせて支援を進めています。</li> </ul>  |

|                              |   |
|------------------------------|---|
| <p>食べることの大切さやマナーを身につける</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児期は、食べる意欲を育てることを大切にし、意欲が育ったところから、あそび食べをしない事や食具を使って食べる事、いすに座って食べる事などを知らせてきました。</li> <li>・家庭で上手く食事ができないという保護者からの相談にも応じ、実際に参観日などで食事の様子を見てもらいながら、支援も行ってきました。家庭との連携も大切に考えてきました。</li> <li>・3歳児から箸の使用を進めてきましたが、個人差があり、一斉に進めることはできないので、状況によってはフォークを使用しながら食事をし、個別に箸の持ち方、使い方指導などを行って来ました。4歳児クラスに移行するころには、箸で食事ができるように支援しています。</li> <li>・椅子に座って食事をしていますが、食べる姿勢の悪い子どもが多くいます。体幹を鍛えることや声をかける事で、正しい姿勢を知らせながら、支援を進めていますが、なかなか定着しないのが現状です。引き続き支援を続けていきます。</li> </ul> |
| <p>野菜作りや年齢に応じたクッキングを体験する</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの感染予防対策をとりながら栄養士・調理師・保育士が協力し合い、それぞれの年齢に適したクッキング活動を行いました。食材について学んだり、料理することを楽しんだり、食べる楽しさを感じ、家庭ではできない経験をたくさん積みました。</li> </ul>   |
| <p>地域の郷土、伝統料理に触れる</p>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの関係で地域の高齢者の方との交流は行いませんでした。</li> <li>・まき餅作り、野草茶作り、餅つきなどは子どもたちに経験させたかったので、保育所内で取り組みました。コロナ渦でも職員で出来ることは実施するように心掛けました。</li> </ul>  |
| <p>保護者への食の関心を深める</p>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の方には月に1回、栄養士による「食育便り」を配布しました。</li> <li>・食に関するアンケートを取り、保護者の悩みや、家庭の状況などを知り、支援の参考にしました。</li> <li>・親子クッキングの場で座談会を行い、食事についての悩みを話し合ったり、保育所での様子を知らせたりしました。<br/>(東保育所は邑南町で感染者が出たので中止にしています)</li> </ul>   |

|  |  |
|--|--|
| <p>(特別支援事業他)</p> <p>保護者の子育てを支援する</p> <p>一時預かり保育事業(いわみ西保育所)</p> <p>体調不良児保育事業(いわみ西保育所)</p> <p>障がい児保育</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の子育て支援として、関連機関と協力体制をとり、支援を進めてきました。また保護者との信頼関係を築くために個人懇談を取り入れ、相談しやすい環境を提供しました。</li> <li>・個人懇談の実施率は100%でした。</li> <li>・今年度は、新型コロナウイルスの影響で、里帰り出産ができない、里帰りをしたら戻れなくなったという理由や、乳児クラスの入所が出来ず、家庭だけでの保育が困難だったなどの理由で、例年の3倍程度の利用がありました。</li> <li>・新型コロナウイルスの感染対策が徹底していたためか、体調を崩す子どもがとても少ない一年でした。事業的な利用は少なかったですが、その分看護師が感染対策に力を入れることが出来ました。</li> <li>・支援体制をとるために、職員加配をつけたり、関係機関との連携を密に取り合ってきました。子どもたちが自己肯定感を失うことなく、自分らしく過ごせるように支援してきました。また、保護者の不安な気持ちに寄り添い、子どもたちにとって最善の方法は何か、ということと共に考えるようにしました。</li> </ul> |
| <p>災害時に備えての安全対策を行う</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の避難訓練は、計画的に実施できました。実施後は訓練について振り返りを行い、改善すべきところを話し合い、対応策を職員で周知するようにしました。</li> <li>・備蓄管理も問題なく行えています。</li> </ul>   |

### 【人財育成事業】

#### ① 研修（石見さくら会保育研究会）

| 計画上の研修   | 対象者        | 参加者数 | 実施した内容・成果等                  |
|----------|------------|------|-----------------------------|
| 調理担当者研修  | 栄養士<br>調理師 | 5名   | ・新しいメニューや調理方法など3保育所で共有しました。 |
| 運動あそび講習会 | 保育士        | 0名   | ・中止                         |
| 実技研修     | 保育士        | 0名   | ・中止                         |
| 保育研修     | 全職員        | 0名   | ・中止                         |
| 救急法講習会   | 全職員        | 48名  | ・園内研修で行いました。                |

|                     |     |     |  |
|---------------------|-----|-----|--|
| 防犯訓練                | 全職員 | 5名  | ・園内研修で行いました。   |
| 年齢別、主任、調理師の話し合い（隔月） | 全職員 | 32名 | ・情報交換をし、日々の保育の向上を図ると共に、食育計画表を作成。研究発表の為の食育プロジェクトにおいても進められました。 |

② 研修（外部派遣研修）

| 計画上の研修                                    | 対象者        | 参加者 | 実施した内容・成果等                    |
|---|------------|-----|-------------------------------|
| 邑南町保育研究会主催                                |            |     |                               |
| ・実技研修                                     | 全職員        | 0名  | ・中止                           |
| 邑智郡保育研究会                                  |            |     |                               |
| ・邑智郡保育研究会総会                               | 全職員        | 1名  | ・役員のみ出席し紙面により実施。              |
| ・所長研修<br>・主任研修                            | 所長<br>主任   | 0名  | ・中止                           |
| ・調理研修                                     | 調理師<br>栄養士 | 0名  | ・中止                           |
| ・研究大会                                     | 全職員        | 0名  | ・中止                           |
| ・実技研修                                     | 保育士        | 0名  | ・中止                           |
| 島根県保育協議会                                  |            |     |                               |
| ・保育士キャリアアップ研修<br>【乳児保育】                   | 保育士        | 0名  | ・不参加                          |
| ・保育士キャリアアップ研修<br>【幼児教育】                   | 保育士        | 2名  | ・幼児期に育てたい三つの柱や10の姿の重要性等学びました。 |
| ・保育士処遇改善対応研修<br>保育士等キャリアアップ<br>【障害児保育】    | 保育士        | 0名  | ・不参加                          |
| ・保育士処遇改善対応研修<br>保育士等キャリアアップ<br>【食育・アレルギー】 | 保育士<br>栄養士 | 0名  | ・不参加                          |
| ・保育士キャリアアップ研修<br>【保健衛生・安全対策】              | 保育士<br>看護師 | 0名  | ・不参加                          |
| ・保育士キャリアアップ研修<br>【保護者支援・子育て支援】            | 保育士        | 0名  | ・不参加                          |

|                            |             |      |   |
|----------------------------|-------------|------|---|
| ・保育士キャリアアップ研修【マネジメント】      | 保育士         | 0名   | ・不参加  |
| ・保育士キャリアアップ研修【新任保育士向け保育実践】 | 保育士         | 0名   | ・不参加  |
| ・新規採用保育教諭・保育士研修            | 保育士         | 0名   | ・不参加  |
| ・中国地区保育研究大会                | 全職員         | 0名   | ・中止   |
| ・保育者研修会                    | 保育士         | 19名  | 川崎医療福祉大学 重松孝治氏より発達障害児自身の苦しさや、理解し対応する事の重要性を学び、共有できました。(ZOOM)                       |
| ・県主任・調理師研修会                | 保育主任<br>調理師 | 16名  | ・上越教育大学大学院 野口孝則氏による「食と保育のつながり」について学び日々に生かすことができました。(動画配信にて、多くの職員が研修を受けることが出来ました。) |
| ・県所長研修                     | 所長          | 0名   | ・中止   |
| ・メンタルヘルス研修                 | 全職員         | 0名   | 不参加   |
| ・リスクマネジメント研修               | 全職員         | 0名   | ・中止   |
| ・エルダー制度研修                  | 保育士         | 1名   | エルダー制度を学び、新人職員育成に反映させました。   |
| 石見養護学校研修会                  | 保育士         | 3名   | ・広島市・子ども療育センター OT 糸賀孝氏により就学前の基盤となる力を育むための活動等について学び保育に取り入れました。                     |
| 計画外の研修                     | 対象者         | 参加者数 | 実施した内容・成果等  |
| 邑南町特別支援連携協議会研修会            | 保育士         | 6名   | 西部島根医療福祉センター 大野貴子医師による「発達障害の正しい理解と支援の考え方について」学びました。                               |
| 邑智病院<br>子どものアレルギー対策研       | 保育士<br>栄養士  | 2名   | 島根大学教授による、子どものアレルギー対応について学びまし   |

|                       |                   |    |   |
|-----------------------|-------------------|----|---|
| 修                     | 看護師               |    | た。  |
| アレルギー疾患に対する専門職向け研修会   | 保育士<br>栄養士<br>看護師 | 3名 | アレルギー疾患対応に関する専門的知識について学び他職員にも伝えていきました。          |
| 浜田聾学校 乳幼児の見え方についての研修会 | 保育士<br>看護師        | 1名 | 弱視の子が増えている。早期発見と治療により改善がみられる事等学びましたので今後の視点とします。 |

### ③ 事業所間研修

| 計画上の研修 | 対象者 | 参加者 | 実施した内容・成果等                                |
|--------|-----|-----|---|
| 職員研修   | 全職員 | 24名 | 応用行動分析学を正職員が学び管理職を中心に学び全職員に徹底していくよう努めました。 |
| 人権研修   | 全職員 | 10名 | 権利擁護・虐待防止研修で改めて様々なハラスメントについて学び意識を高めました。   |
| 感染症研修  | 全職員 | 0名  | ・未実施                                      |
| 接遇研修   | 全職員 | 10名 | 接遇マナー研修で接しかたや、ことや言葉使い等について学び日常に役立てました。    |

### 【施設整備事業】

| 計画上の施設整備等          | 実施した内容等  |
|--------------------|--|
| 乳児クラスの部屋のカーテンの取り換え | ・これまで使用していたのは遮光性のないものだったので、今回遮光カーテンにしたことで、午睡時の睡眠がとりやすくなりました。レースのカーテンをつけたことで、遮光カーテンの老朽化防止にもなりました。 |
| スチームコンベクションオーブンの更新 | ・耐久年数が過ぎていたので、急な故障の心配がなくなりました。これまで使用していたものより機能がよくなり、調理業務の効率が上がりました。                              |
| 絵本や絵本コーナーの充実       | ・各クラスに必要な絵本を準備することができました。<br>・子どもたちの成長に必要な絵本を購入することで、より充実した保育が行えます。                              |

|                |   |
|----------------|---|
| 運動遊具・用具の購入     | ・子どもたちの発達に必要な運動遊具や用具を購入させていただきました。年齢によって活動内容も違うので、それぞれに合ったものを購入しました。古くなった遊具の交換も行い、安全性が高まりました。 |
| テーブルの更新および補充   | ・現在使用しているテーブルが老朽化していたので、新しいものと交換できました。また人数増加もあり補充も行いました。                                      |
| 絵画作品保管棚(乾燥棚)   | ・出来あがった絵画作品の保管場所がなく、廊下などに並べていたので、棚の購入で作品を傷めることなく管理することが出来ました。                                 |
| 冬用スタッドレスタイヤの更新 | ・使用頻度はすくなくはなかったですが、耐久年数が過ぎていたため、新しいものと交換しました。安全に公用車が利用できるようになりました。                            |
| プールの移管         | ・日貫保育所で購入した大型プールを移管しました。  |

## 2. 利用者状況の総括

今年度は、保育士の配置人数が確実な範囲の中で入所児童数を受け入れたので、人員不足の心配なく保育が行えました。予定より増えている人数は、保護者の勤務異動などで入所した子どもたちです。幼児クラスの子もだったため、職員の配置には影響なく受け入れることができました。

### 【利用率（入所率）の状況表】

(単位:人、%)

| 定員  | 計画人数 | 計画利用率 | 実績人数 | 実績利用率 | 備考          |
|-----|------|-------|------|-------|-------------|
| 120 | 110  | 91.7  | 111  | 92.5  | 4月スタート時102名 |

**【利用者（入所者）構成の状況表】**

(単位:人、%)

| 構 成<br>(クラス別) | 計 画 |       | 実 績 |       | 備 考         |
|---------------|-----|-------|-----|-------|-------------|
|               | 人 数 | 構成割合  | 人 数 | 構成割合  |             |
| 0歳児           | 10  | 9.1   | 10  | 9.0   | 4月スタート時 3名  |
| 1歳児           | 16  | 14.6  | 16  | 14.5  | 4月スタート時15名  |
| 2歳児           | 27  | 24.5  | 27  | 24.3  | 4月スタート時27名  |
| 3歳児           | 9   | 8.2   | 9   | 8.1   | 4月スタート時 9名  |
| 4歳児           | 26  | 23.6  | 27  | 24.3  | 4月スタート時26名  |
| 5歳児           | 22  | 20.0  | 22  | 19.8  | 4月スタート時22名  |
| 計             | 110 | 100.0 | 111 | 100.0 | 4月スタート時102名 |

**3. 要員（人員）体制の総括**

令和2年度は、最終入所人数に必要な要員を年度当初から配置しました。3月に入所予定の0歳児が入ると、体制が厳しくなることを予想はしていましたが、2月に調理員が1名育児休業明けで勤務に復帰し、調理員が増員となるので、その増員分を保育補助として勤務してもらう予定にしていました。しかし調理員の1名が体調不良で勤務することが出来ず、結果的には余裕なく保育することになりましたが、職員間で協力体制をとり、乗り切ることが出来ました。

**【要員状況表】**

(単位:人、%)

| 職 種   | 計 画 |       | 実 績 |       |               |
|-------|-----|-------|-----|-------|---------------|
|       | 人 数 | 常勤換算数 | 人 数 | 常勤換算数 | 計画に対する<br>充足率 |
| 所長    | 1   | 1.0   | 1   | 1.0   | 100.0         |
| 主任保育士 | 1   | 1.0   | 1   | 1.0   | 100.0         |
| 保育士   | 15  | 15.0  | 15  | 15.0  | 100.0         |
| 栄養士   | 1   | 1.0   | 1   | 1.0   | 100.0         |
| 調理員   | 5   | 1.8   | 5   | 1.8   | 100.0         |
| 看護師   | 3   | 1.4   | 3   | 1.4   | 100.0         |
| 保育補助  | 2   | 2.0   | 2   | 2.0   | 100.0         |
| 環境整備  | 2   | 0.4   | 2   | 0.4   | 100.0         |
| 計     | 30  | 23.6  | 30  | 23.6  | 100.0         |

#### 4. 苦情解決（要望含む）について

令和2年度において、以下の苦情が寄せられ、解決を図りました。

##### 【苦情事例1】

- ・発生日：令和2年6月11日
- ・申立者：保護者の方
- ・苦情内容：“髪を結んでいるゴムが保育所でなくなった” ことについて  
髪を結ぶゴムが一日遅れで帰ってきたことや、以前つけていったものが帰ってこなかったこともあるで、個人の物ではあるが、持ち物の確認をしてほしい。
- ・処理結果：  
午睡前など、ゴムを外す時には所定の場所に置くように決めて、担任が管理するようにしました。ただ、小さいものなので管理が難しいこともあり、紛失しては困るような華美なゴムは持って来ないようにすることを全体にもお知らせしました。
- ・第三者委員の関与：解決結果を報告済み

##### 【苦情事例2】

- ・発生日：令和3年3月3日
- ・申立者：保護者の方
- ・苦情内容：“休みの連絡をしたのに、聞いていないと言われた” ことについて  
子どもが休んでいたことを知らずに父親が夕方迎えに来た時に、担任ではない職員が確認をせず、「今日は休みで、その理由は聞いていない」と言ったことで、母親から「朝連絡していたのに…」と苦情がはいる。
- ・処理結果：  
朝の時点で連絡はあったが、電話を受け取った職員が少し遅れて担任に伝えたことで、“連絡がない” という情報が認識され、父親が迎えに来た時に対応した職員が、連絡がないと思い込んで対応してしまったようです。連絡連携のミスと、対応の仕方に問題があったことで、保護者に対してはすぐに謝りの連絡を取り、担当職員には注意を行い、職員全体にもこの出来事を知らせ、今後このようなことがないよう、連絡の伝達、保護者への対応方法、確かでないことは必ず担当者に確認することを再確認しました。
- ・第三者委員の関与：解決結果を報告済み

以上